



最初にお読みください

AT-TQ2450 リリースノート

この度は、AT-TQ2450 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.0.1

2 本バージョンで追加・拡張された機能

ファームウェアバージョン 1.2.0 から 2.0.1 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加・拡張されました。

2.1 MCS (データレート) 設定

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

通信プロトコルが IEEE 802.11n の場合の通信速度を設定する、MCS (データレート) 設定をサポートしました。

2.2 ビーコンの国情報の付加

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

「無線」画面において、ビーコンに国情報を付加するのオプションが選択できるようになりました。

2.3 WDS 機能

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「WDS」](#)

無線通信でアクセスポイント間をブリッジする WDS (Wireless Distribution System) をサポートしました。

1 台の AT-TQ2450 アクセスポイントに対して、同一機種を最大 4 台まで無線通信で接続し、無線ネットワークのエリアを拡張することができます。

2.4 リセットボタンの無効化

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

製品本体の RESET ボタンを無効にすることができるようになりました。

本機能を有効にすると、製品本体の RESET ボタンによるご購入時設定への初期化はできなくなります。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン 1.2.0 から 2.0.1 へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。

3.1 クライアント未接続時のブロードキャスト/マルチキャスト

本製品に無線クライアントが 1 台も接続されていない場合、イーサネットインターフェースで受信したブロードキャスト/マルチキャストフレームを無線インターフェースに転送しないように変更しました。

3.2 無線コントローラーのリンク切断時の動作

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「Managed AP」](#)

以前のバージョンでは、「Managed AP」画面の「リンク切断時動作」にて本製品と無線コントローラーとの間のリンクが切断された際の動作が選択できましたが、ファームウェアバージョン 2.0.1 以降では、無線コントローラー側の設定に従って動作します。これに伴い、「Managed AP」画面の「リンク切断時動作」項目は削除されました。

3.3 IEEE 802.11n を含む通信モードにおけるセキュリティー設定

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)

IEEE 802.11n を含む通信モードで「スタティック WEP」や「IEEE802.1X」を使用できないように変更しました (6.2 参照)。

4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.2.0 から 2.0.1 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 「基本設定」画面の「ネットワークの設定を入力してください」の項目において「現在のパスワードが違います」が表示されたままとなる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.2 省電力モードを有効にした無線クライアントが存在する場合、まれに本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.3 本製品の「デフォルトゲートウェイ」と「DNS ネームサーバー」の設定を DHCP サーバーから取得している場合、リース期間が満了した後も「デフォルトゲートウェイ」と「DNS ネームサーバー」の設定が本製品に残ったままになっていましたが、これを修正しました。
- 4.4 「無線 LAN 設定」画面において、日本語のヘルプの表示に誤りがありましたが、これを修正しました。
- 4.5 「無線 LAN 設定」画面または「無線」画面において、「モード」を IEEE 802.11a から IEEE 802.11a/n にすると、設定の変更がただちに反映されませんでした。これを修正しました。

- 4.6 IEEE 802.1X、WPA エンタープライズのセッションキー更新間隔の設定値を変更しても動作に反映されず、ブロードキャストキーの更新間隔の設定値と同一のタイミングでセッションキーが更新されていましたが、これを修正しました。
 - 4.7 「VAP」画面の「IEEE 802.1X」および「WPA パーソナル」の「ブロードキャストキー更新間隔」のデフォルト値として「300」と記載されていましたが、実際のデフォルト値である「0」（キーを更新しない）に修正しました。
 - 4.8 「VAP」画面において、英語のヘルプの表示に誤りがありましたが、これを修正しました。
 - 4.9 クラスタを構成し、「使用帯域幅」が「40MHz」、「制御用チャンネル」が「上側波帯」に設定されているとき、「チャンネル自動管理」を「開始」状態から「停止」に変更すると無線が停止していましたが、これを修正しました。
 - 4.10 「イベント」画面のリレーホストについて、オンラインヘルプと動作が異なっていたが、これを修正しました。
 - 4.11 SNMP マネージャーで「sysName」を参照した際、「基本設定」画面の「システム名」で設定した値が正しく取得できませんでしたが、これを修正しました。
 - 4.12 「SNMP」画面の「SNMP マネージャのホスト名またはサブネット」の欄に「無効な IP アドレス / 有効なサブネット」の形式で入力すると、「サブネットが無効です」というエラーメッセージが表示されていましたが、これを修正しました。
 - 4.13 「基本設定」画面の「System Name」「System Contact」「System Location」の設定値が SNMP の「sysName」「sysContact」「sysLocation」と同期していませんでしたが、これを修正しました。
 - 4.14 インターフェースの ifLastChange の値が常に 0 になっていましたが、これを修正しました。
 - 4.15 SNMP の設定において、「トラップ送信先」の「ホスト名または IP アドレス」の「有効」チェックボックスがチェックされていない場合、トラップホストの設定がクラスタで共有されませんでしたが、これを修正しました。
 - 4.16 「SNMP マネージャのホスト名またはサブネット」にマスク長として 33 以上の値を入力したときに誤ったメッセージが表示される場合がありますでしたが、これを修正しました。
 - 4.17 「チャンネル自動管理」画面の「固定」チェックボックスを適用する際に、画面の下部にデバッグメッセージが表示されることがありましたが、これを修正しました。
- 以下の項目は、ファームウェアバージョン **1.2.0** のリリースノートに記載されていませんでしたが、実際には **1.2.0** で修正済みでした。
- 4.18 無線コントローラー（AT-UWC）による管理を行う際、VAP の数が多い場合、プロファイルを適用して無線コントローラーの管理下に入るまでに時間がかかる場合がありますでしたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **2.0.1** には、以下の制限事項があります。

5.1 VAP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)

ダイナミック VLAN (WPA エンタープライズ) 環境で、無線クライアントの検疫を実行するように RADIUS サーバーが設定されている場合、無線クライアントに VLAN 間ローミングが発生すると、無線クライアントの認証に失敗することがあります。

5.2 WDS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「WDS」](#)

WDS において、2 台以上のアクセスポイントを中継した多段接続は未サポートとなります。無線ネットワークの中心となる 1 台のアクセスポイントに対し、同一機種を最大 4 台まで接続し、エリアを拡張することができます。

5.3 送信 / 受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)

「送信 / 受信」画面の wlan0wds0 ~ 3 の「ステータス」が正しく表示されません。

6 ファームウェアのアップグレードにおけるご注意

重要：アップグレード中は、本製品の無線機能が停止します。アップグレードは、必ず有線 LAN ポートに接続したコンピューターから実行してください。
また、アップグレード中は、本製品の Web 設定画面へのアクセスや、有線 LAN ポートへのトラフィック流入をできるだけ避けてください。

6.1 V.1.0.0 → V.1.1.6 以降へのアップグレード

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

ファームウェア V.1.0.0 から V.1.1.6 以降へのアップグレードは、まず V.1.0.0 から V.1.1.5 にアップグレードし、引き続き V.1.1.5 から V.1.1.6 以降にアップグレードしてください。

直接、ファームウェア V.1.0.0 から V.1.1.6 以降へのアップグレードを行わないでください。これを行うと、ファームウェアが正常に更新されません。これを行ってしまった場合は、この状態から V.1.1.5 にアップグレードし、その後 V.1.1.6 以降にアップグレードしてください。

ファームウェアは、弊社ホームページからダウンロードしてください。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>

6.2 V.1.1.0 ~ 1.2.0 → V.2.0.1 へのアップグレード

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

アップグレード前の通信モードが IEEE 802.11n を含む場合、VAP のセキュリティー設定が「スタティック WEP」や「IEEE802.1X」に設定されていると、V.2.0.1 へのアップグレードによって VAP のセキュリティー設定が「無し」に変更されます (3.3 参照)。

アップグレード前に、セキュリティ設定を「WPA パーソナル」や「WPA エンタープライズ」に変更し、それに合わせて無線クライアントのセキュリティ設定も変更してください。「スタティック WEP」「IEEE802.1X」には脆弱性があります。強力なセキュリティの「WPA パーソナル」「WPA エンタープライズ」の使用をおすすめいたします。アップグレード後に、セキュリティ設定を「WPA パーソナル」「WPA エンタープライズ」に変更することもできますが、一時的にセキュリティ設定が「無し」となるためおすすめいたしません。

アップグレード後も「スタティック WEP」や「IEEE802.1X」をご使用になりたい場合は、アップグレード前に IEEE 802.11n を含まない通信モードに変更してください。

6.3 V.2.0.1 から V.1.1.5 へのダウングレード

 **参照** 「リファレンスマニュアル」/「保守管理」/「アップグレード」
「リファレンスマニュアル」/「オプション設定」/「NTP」

ネットワークタイムプロトコル (NTP) を使用しており「タイムゾーン」が「Japan」に設定されているとき、V.2.0.1 (V.1.2.0) から V.1.1.5 にダウングレードすると、NTP で取得した時刻に 9 時間が加算された時刻が表示されます。

この事象の回避は、ダウングレードした V.1.1.5 で NTP 画面の「タイムゾーン」を「(GMT+09:00) Tokyo, Osaka, Sapporo, Yakutsk」から「(GMT) Greenwich Mean Time: Lisbon, London」に変更してください。

ダウングレードした V.1.1.5 から再び V.2.0.1 にアップグレードする場合は、アップグレードする前に V.1.1.5 で「タイムゾーン」が「(GMT) Greenwich Mean Time: Lisbon, London」であることを確認した上で行ってください。「切り替え」ボタンでファームウェアのバージョンを切り替える場合も同様です。

また、ダウングレードした V.1.1.5 → V.1.2.0 → V.2.0.1 の順にアップグレードする場合は次の手順を実行してください。

- (1) V.1.1.5 で「タイムゾーン」を「(GMT+09:00) Tokyo, Osaka, Sapporo, Yakutsk」に変更してから、V.1.2.0 にアップグレードしてください。
- (2) V.1.2.0 から V.2.0.1 にアップグレードして、V.2.0.1 で設定を初期化し本製品の再設定を行ってください。

7 リファレンスマニュアルについて

最新のリファレンスマニュアル (613-001462 Rev.E) は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記のリファレンスマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのリファレンスマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>